

と。私は心中不安だったんです。幹部の人たちから「あのとき、何事も無いような顔をしていましたね」と言われました。このことが一番大事だったと思いますね。リーダーが心配しておろしていたら、全部がそうなたと思います。今、そういう所が多くありますよ。何事も無いときには立派な車に乗って、日曜日はゴルフ、夜は宴会で、何かあった途端におろおろする。私は幸いなことにいろんな修羅場をくぐってきたんですね。そのため少々なことで揺るがない。ただ修羅場をくぐる時、多くの人は「俺は修羅場をくぐってきた」という人相になりますよ。それはダメですね。

**今までくぐってきた修羅場は：**

かつて得意先がよく倒産したんです。簡単に始められるんです。自動車一台と事務所があれば始められたんですね。「あの会社が潰れる」というと、取り立て屋という暴力団が臭いをかぎつけて入り込んでくるんです。そして優良な債権者を全部排除して全部持ってちゃう、これが普通になっていたんです。私どもの得意先にもよく入りました。そういうものに対して私は自分が矢面に出て、そういう人と相対したんです。そのために私が監禁されたりしました。私は自分一人で行くんですが、人を連れて行きますと、連れて行かれた方が脅かされて参っちゃうんです。

**常識が通用しない相手との交渉は？**

私は必ずやる必要があるんですよ。椅子に

浅く腰をかけるんです。背もたれにもたれかからないんです。何時間でも背筋を伸ばして座っているんです。相手の顔を見て話をします。いろいろ要求されますが、それを何時間でも聞いて、「誠意を見せろ」と言われます。「誠意って何ですか?」「そんなものわかってんだろ!」「私、わかっていたら聞かないですよ、それはお金を出せということですか」「誰が金出せて言った!」「あっ、金じゃないんですね、何ですか」。そんな体験をいくつも積み重ねてきますと、少々なことではビクビクしません。お金を払って済みますということにはしなかった。これが、その度に私を鍛えてくれた出来事なんです。

**15年で51億まで成長。重要視したことは?**

これは「商品開発」ですね。どういものがお客様に好まれるのか?その点、私は一軒一軒方々を回って歩いていきますから、「ちょっとした、こういうものがあれば良いのにな」とか、「こういうものをお客様が欲しがっていた」とか、そういう話をよく入ってきますね。そういうものから作り上げたもの、ある小売店のお客様から要望されどこにもなくて困っている。私が「わかりました」と言って探してくる。そのときの喜び方が尋常じゃなかった。これは多くの人が望んでいるんだと思って、それはアメリカの商品でして、輸入したら飛ぶように売れたんです。そういうことが重なりましたね。その商品はアメリカの軍用車につける甲高い音のラッパなんです。

# 便教会新聞

第139号  
平成30年10月

## 改善

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋  
〒445-1080  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七  
T/F 056-3156143 二七  
携帯 090-4215-1727

## 『本気の改善』

(熊本県) 荒尾市立荒尾海陽中学校  
教頭 荒牧 義孝

荒尾海陽中学校で行う掃除に学ぶ会もはや5回目となり、毎回たくさんの方々の手助けのもと、子どもたちも少しずつ変わってきました。思い返すと5年前、本校は他に類を見ない荒れた状況にありました。学校が「荒れている」というよりも「ずさんでいる」という言葉があったかと思えます。私が、赴任して美化担当を受け持ったのですが、前年度におられた先生方の引き継ぎは、学校現場ではあまり耳にしない「全員に掃除はさせない」という決定事項でした。授業後、ほとんどの生徒を帰して、掃除ができる一部の生徒だけで掃除をしよう、というものでした。放課後になると、廊下で暴れ回り、鬼ごっこをしながら雑巾がけをしている生徒を飛び越えて帰っていく生徒達。今でもその光景は忘れられません。しかし、その時見えた一筋の光は、そのような状況でも黙々と掃除を続ける生徒がいたということです。衝撃的でした。あの環境で、まわりに流されることなく、帰り

の会が終わった後に残って掃除をする。中学生というにもかかわらず「本物」だと思いました。こんな生徒がまだいるのなら・・・と希望を持つことができました。それから、ありとあらゆる考えられる手という手を打ち続けました。その中でも大きな手が、この「トイレ掃除に学ぶ会」でした。とにかく、この子たちに「本物」を見せたい、「本物」を体験させたい、「本物」の人たちと触れ合わせたい。その一心でした。実際に第1回で多くの方々に参加していただき、一番荒れていた子ども達に「本物」をふれあわせたことで、わずか1年で「掃除なんてさせられない」状態から、「日本一の清掃」を目指して全員で清掃しよう、というところまでたどり着くことができました。それから5年間、多くの方々の支えがあって、本校で便教会を続けさせていただいています。生徒たちも、伝統のような形で今年自分たちが・・・という気持ちを持っているようで、本当にありがたいと思っています。生徒の感想を紹介すると、「今日は、今まで一番、丁寧に時間をかけてトイレ掃除を行いました。そこで僕はたくさんのお話を学びました。例えば、掃除はきれいなお話を広げるといふことや、覚悟の決め方等です。先生は、掃除した後はいつもより素直に笑えるとおっしゃ

っていました。僕もそんな気がしました。今日、僕は便器も心もきれいに磨かれました。学校の掃除箇所はトイレなので、毎日15分間頑張ろうと思えました。トイレ掃除に学ぶ会に参加できたことを心から嬉しく思いました。一郎(トイレにつけた名前)をきれいに磨けてよかったです。」と多くの生徒たちが、自分自身の姿容を書いていました。さらに、「これからは、普段からの掃除もきちんとしていこうと思えました。また、ゴミを見つけたら拾うなどして、掃除するときの負担を減らしていきたいと思えました。」とか、「今日学んだことを、一緒にトイレ掃除をしている友達に教えていこうと思います。」などといった、まわりやこれからの行動を変えようとしている感想も多くありました。全校生徒に比べれば、わずか20数名の一部の生徒が、ただか1回トイレ掃除を経験したことには過ぎないのかもしれない。しかし、わずか1回の経験でも、「本物」を体験した子どもたちはその1回だけでも大きく変わっていく、まわりを変えていく力になることを実感しました。その証拠としてこれまで経験した先輩の生徒たちは生徒会の一員として学校の中心となり、3年生になったあとで何かを変えようとする行動をとってくれました。1年目の生徒たちは全校清掃を学校に取

【編集後記】荒牧義孝先生の「本気の改善」を読んで泣きました。「掃除なんてさせられない」状態から「日本一の清掃」を目指して全員で清掃しよう」の声が上がるといふだけでの苦しみがあったのだろうか?荒尾市内ワースト1中学校の汚名を返上するまでの先生と生徒の闘いは当事者にしかわからない。

「掃除で学校は変わる」と口では言えるが、本気になって取り組む先生はどれぐらいいるのだろうか。私が第1回熊本便教会に参加したとき、荒尾海陽中学校には暗く、重い空気が淀んでいました。あの空気の中、やんちゃな生徒と向き合って学校を正常化していくのは現場の教師です。先生は子どもたちの夢、希望を双肩に担っています。生徒の笑顔、喜びは苦勞の代償であり、教師冥利に尽きます。九月八日、第5回熊本便教会に参加したとき、生徒の表情は明るく、とっても素直でした。教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会、「便教会」は教師の資質向上、研修の場です。生徒と向き合うには、まず自分と向き合うことから始まります。頭でっかちで机上の空論では現場の問題は解決できず、下座に降り身を低くし心の重心を下げ、手足を使って掃除をするときと深いところから何か沸き上がってきます。それが教師の資質向上の糧となり、生徒をリードする力となります。教師の「本気の改善」が「生徒たちが自分たちで改善」していくことにつながります。

高野修滋 拝

## 『続ける』

(熊本県) 和水町立三加和中学校  
教諭 坂井 ルミ

り戻し、2年目の生徒たちは無音清掃を後輩たちに伝え、3年目の生徒たちは、学校内だけでなく、学校外でもこれまで迷惑をかけた恩返しとして「地域の清掃を」という活動を行いはじめました。昨年度の生徒会では地域にある荒尾駅の構内の清掃とトイレ清掃を行い、各部活動でも地域の施設を掃除したり、花植えのボランティアを行ったりしました。本年度は地域に住む独居老人宅を訪問し、一人暮らしで年末の大掃除がきちんとできずに困っていらっしゃるご家庭に向いて、可能な限りの年末清掃に取り組みうと計画を進めています。もちろん、大きく荒れた学校全体が完全に落ち着いたわけではありません。まだまだ変わっていかなければならぬところはまだたくさんあります。しかし、それを私たち大人が直していくのではなく、生徒たちが自分たちで改善していけるようになったら、この便教会の取り組みがようやく一歩前進したと言えるのかなと思っています。本当に少しずつですが、自分たちにできることをこつこつと続けることを目標に活動していきたいと思っています。これまでご協力していただいている方々に感謝申し上げます。そしてこれからもよろしくお願いいたします。

第5回熊本便教会は9月8日、荒尾海陽中学校で行われました。第1回の状況を知っている私にとっては驚きでした。『掃除で学校は変わる』これは本当のことです。教師が変われば子どもは変わる、学校が変わる。校風が必ず良くなります。

でもありません。掃除に参加される方々の年齢はさまざまです。しかし、同じ感覚での話ができます。空気がいいです。気持ちが楽です。そのままの自分が出せます。私にとって、楽しいな場所であり、居心地のいい場所になっています。

五年が経ち感じていることは、掃除の輪を広げていくことです。自分は感動・感謝を味わい、掃除の素晴らしさを実感しておりながら、同僚の先生方に声をかけることができいません。自分の弱さを感じています。「誘っても・・・」と、勝手に相手のことを決めつけている自分がいます。自分から心を開こうとしていないのと一緒です。

四月から現在の学校に勤務しています。ここは、便教会代表の眞田先生が退職まで勤務され、多くの方との出会いを大切にされてきた学校です。鍵山相談役にも来て頂き、生徒達が元気をもらった学校でもあります。ご縁を感じるとともに、ここに来た意味を考えます。内にとどまるだけでは広がらない。変わらない。自己満足で終わってしまう。自分と向き合う一番の近道であり、効果のあるトイレ掃除。『継続』とともに『広げる』を意識して歩み続けたい。いろいろなことを考えるのではなく、一粒一粒からの種まきをし、掃除の素晴らしい力を実感してもらい、熊本のきれいと元気を広げていきたいです。

教師の最大のサービスは教師の資質向上です。

熊本便教会の立ち上げから五年が経ちました。私たちは、『こつこつと続ける』をテーマに、小さくてもいい、継続することを大切にしているとうと歩んできました。毎日、学校で行われる十五分間の掃除でも実践できるような道具を使って、こつこつと・・・そして、会場は荒尾海陽中学校で継続して取り組みました。道具の関係、リーダーなどが無理なく計画できるように、毎回参加する人数は、六十名から七十名です。始めたころは、生徒会の役員を中心とした生徒たちの参加でしたが、今では自ら希望し、参加する生徒ばかりとなりました。日々の掃除も『無音清掃』を徹底して取り組んでおられます。五年前、一斉に掃除ができないような状態であったとは考えられません。トイレ掃除を続けることで、学校の空気が変わり、心が変わり、動きが変わったのです。先生方も、毎年入れ替わりはあるものの積極的に参加してくださいます。

学校で実践する中で感じていたのは、教師の姿です。実践者というよりは、生徒達への指示者となっていることの方が多いのです。まさに自分を見ているようでした。上から目線の自分を・・・そして、自分ではなく、他の人を変えようとしている自分を・・・

## 『私の人生 その七』

日本を美しくする会  
相談役 鍵山秀三郎

### 60%の取引をやめる決断は？

私が判断するときの基準は「社員がこれで幸せになるかどうか」です。この仕事をしていたら社員は絶対幸せになれない、誠実な仕事はできないと思えました。相手のご機嫌を伺ったり、ごまかすようになったり、嘘をついたりするようになるでしょう。そんなことまでもして、仕事はするものじゃない。私はせっかく社風の良い会社にしようとしているのに、逆の方を向いて歩くことはしたくない。これから鹿児島へ行くのに東北線に乗っていくようなことではダメです。やはり鈍行列車であっても東海道線に乗らなければ鹿児島に近づけない。速いからといって東北新幹線に乗ったんじゃ、反対になっちゃうんです。ということですね。辞退を申し出て、それから急速に方々に直営店に展開することにしました。

### 決断の経緯をもっと詳しく・・・

商品を納入する方法とお店を借りて出店をして自分で商売する方法といろいろな方法がありました。それを合わせて約29億円ぐらいになったんですが、その取引の過程においていろいろな過酷な要望が出ました。うちの会社はそれに耐えられる体質は持っていません

今回、トイレ掃除が終わり、道具の片づけのために回収場所へ行くと、道具がすべて片づけられていました。中学校の先生方が協力してやってくださっていました。感謝の気持ちとともに、継続することの意味を知りました。まさに『教師が変われば生徒は変わる。学校は変わる』です。継続して取り組む中で『学校を変えたい』と思う先生方の思いが一つになり、日々の生活においても、目の前の現状に対して、自分は何ができるのかを考えて動かれています。一人一人の力の高まりが、学校を変える大きな力となっていることを感じました。これぞ、トイレ掃除の魅力です。

参加者の方が、「高野先生の言葉が心に突き刺さるようでした。」と話して来られました。この方も毎回参加いただいている方の一人です。そして職場でのことを「自分はよかれと思ってやったことが、相手にとってはおせっかいになることもあり難しい・・・」と言われました。「自分にしてやったのに・・・」ではなく、自分の行いを振り返ることができていることが、感性の高まりではないかと思うのです。別の参加者の方は、「体はくたくたでしたが、心は軽かったです。」とおっしゃいました。トイレ掃除は心の掃除。終わった後は何でも吸収できる自分になっています。

トイレ掃除を通して出会った本物の方々の行動を知って、実際に見て、自分を反省するばかりです。トイレ掃除に出会っていなければ、自分は今、どんな人間になっていたのだろうか・・・と。かといって大変身を遂げた自分がいるわけ

が、やがて耐えられなくなったとき、社員が大変な苦勞をすることを感しました。他の会社との取引を見ていると、そういうことをひしひしと感じたわけですね。今ならまだやめることができると思って私は取引辞退を申し出たんです。でも、ずいぶんいろんな目に遭いました・・・

### どんな目に遭われたんでしょうか？

興信所から銀行や取引先に「ローヤルという会社は大丈夫か？」と五月雨式に問い合わせがあり、社員を含め、みんな心配になりますよね。現にメーカーさんにいつものように注文したら、「ない」と言われ、いつ入るか聞いていたら、「そんなのわからない・・・」と。コロっと変わるんです。要するに信用不安ですよ。中には商品を引き上げに来る会社もあったり、いろいろな目に遭いました。取引辞退を申し出た途端にそういう事態になったんです。興信所が毎日「あの会社(ローヤル)は大丈夫か？」と来たら心配になりますよね。同じことでも一人、二人ならいいですけど、五人、十人から聞かれたら、だんだん心配になります。そういうことが方々で起きまして、商品が入ってこない・・・、入ってこないだけではなく、商品を持って行かれちゃう・・・、そういう時期もありました。

### その困難をどのように対処したんですか？

私が動揺したらきつと社員も動揺して、それが全部に広がったと思います。後から聞きますと「私が何もないような顔をしていた」